

# 日本文化のあけぼの①

\*教科書 P8~10

\*詳説日本史ノート P2

## I 文化のはじまり

夜明け／新しく事態が展開しようとする時のこと ←

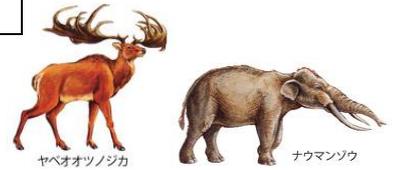
【考古学上の時代区分】 **青字は重要**

<p>更新世 約 258 万年前～ 約 1 万年前まで</p>	<p>[<sup>1</sup>] 時代 (先土器時代)</p>	<p>[<sup>2</sup>] 石器を使用。末期には<b>細石器</b>も使用される。自然採集(木の実等)の生活中心。</p>
<p>完新世 約 1 万年前～現在</p>	<p>[<sup>3</sup>] 時代</p>	<p>[<sup>4</sup>] 石器を使用。弓矢が<b>発明</b>され、<b>縄文土器</b>を使用。<b>狩猟・漁労</b>などの採集生活。</p>
	<p>[<sup>5</sup>] 時代</p>	<p>[<sup>6</sup>] <b>鉄器</b>が伝来、<b>石器と併用</b>。 水稻農耕の広まり→貧富の差・身分区別が発生</p>
	<p>[<sup>7</sup>] 時代</p>	<p><b>土師器</b>や<b>須恵器</b>を使用。鉄製農具・鉄製武器が 教科書 P30 参照 普及。<b>古墳</b>の構築。<b>大和政権</b>の成立。</p>

### ◆日本列島の形成◆

日本列島は更新世の終わり頃まで大陸と陸続きであったが、最後の氷河期が終わると気温は上昇し、地殻変動もあって大陸から分裂し、ほぼ現在の形になった。

根拠: 現在日本には見られない **ナウマンゾウ**や**オオツノジカ**の化石が発掘されている。



## II 旧石器時代

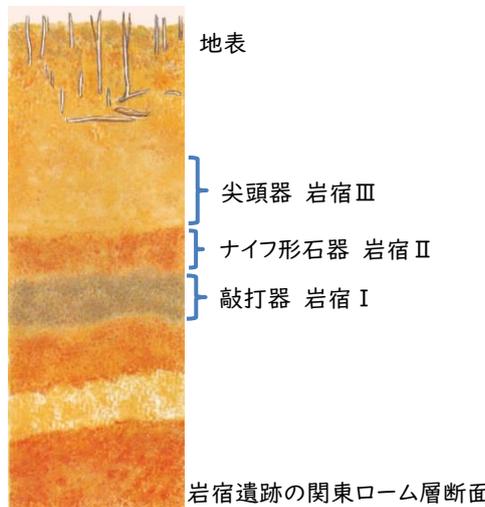
### 1. 旧石器時代の特色

◆人類の誕生はおよそ 650 万年前…**猿人**→**原人**→**旧人**→**新人**の順で出現した。

日本列島で発見された化石人骨(新人段階のもの)と推測: 静岡県の[<sup>8</sup>]人、沖縄県の[<sup>9</sup>]人など

◆土器を伴わず、打製石器(石を打ち欠いたもの)を使用。

[<sup>10</sup>] 遺跡: 1946 年、[<sup>11</sup>] が群馬県の**関東ローム層**(更新世に堆積した地層)で発見 → 日本列島での旧石器文化の存在が実証された



**相沢忠洋『岩宿の発見』**  
赤土の断面に目を向けたとき、私はそこに見慣れないものが、なにか突きささるような状態で見えているのに気がついた。……それを目の前に見たとき、私は危く声をだすところだった。じつにみごとというほかない、黒曜石の槍先形をした石器ではないか。完全な形をもった石器なのであった。われとわが目を疑った。考える余裕さえなくただ茫然としてみつめるばかりだった。……もう間違いない。赤城山麓の赤土(関東ローム層)のなかに土器をいまだ知らず、石器だけを使って生活した祖先の生きた跡があったのだ。  
(相沢忠洋『岩宿の発見』講談社文庫)

### 2. 旧石器時代人の生活(教科書 P10 参照)

- ◆ナイフ形石器や[<sup>12</sup>]などの石器を棒の先端につけた**石槍**を用いて、大型動物を捕獲。
- ◆末期には小型の[<sup>13</sup>]も使用。
- ◆食料を求めて移動生活…簡素な**テント式**の小屋や、**洞穴**を利用。**小規模な集団**で生活する。



<p><b>石斧</b> 直接手で握るか、短い柄につけ、木材の伐採用や加工具、土掘り具として使用した。</p>	<p><b>尖頭器</b> 槍先形尖頭器・石槍ともよばれる。柄の先端につけ、刺突具として使用した。</p>	<p><b>ナイフ形石器</b> 形状により、直接持つか柄をつけてナイフのように切断する道具、あるいは槍先につけて刺突する道具として使用した。</p>	<p><b>細石刃(器)</b> 長さ 3~4 cm 程度の小さな打製石器(細石刃)をいくつか組み合わせて、木・骨などの軸にはめ込み、<b>鉞</b>や<b>槍</b>として使用した。</p>
---	---	---	--

### Ⅲ 縄文文化(約1万年余り前~紀元前4世紀ごろ)

#### 1. 特色

- ◆気候の温暖化…照葉樹林(西日本)や落葉広葉樹林(東日本)が広がる→食料環境が多様化
- ◆磨製石器・土器を使用…狩猟・漁労や植物性食物の採集中心で、牧畜や農耕はほとんど行われていなかった。

#### 2. 道具

- ◆弓矢…イノシシ(猪)・ニホンシカ(鹿)などの中小動物の狩猟に適した狩猟具。その先端には石鏃を使用。
- ◆磨製石器…表面が磨かれ、木の伐採や加工に適している。

素材:[<sup>14</sup>]やサヌカイト(讃岐石)が用いられた。

その分布状況(右の地図)から、遠方集団との交易も行われていたことが推測できる

- ◆縄文土器…貯蔵・調理用。厚手、黒褐色。その形態の変化で6期に区分される。

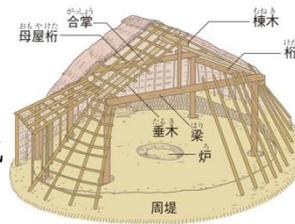
教科書 P12 参照

- ◆[<sup>15</sup>]…主に漁労用。動物の骨や角を利用。



#### 3. 社会と生活

- ◆[<sup>16</sup>]住居(右図)…水辺に近い台地上に集落を形成
- ◆[<sup>17</sup>]…ゴミ捨て場



※主な遺跡:[<sup>18</sup>]貝塚(東京都)、加曾利貝塚(千葉県)、鳥浜貝塚(福井県)

1877年、アメリカ人[<sup>19</sup>]が発掘調査

#### 4. 信仰

- ◆縄文人にはあらゆる自然物・自然現象に霊威が存在すると考える[<sup>19</sup>]
- 呪術的風習を示す遺物として、土偶\*<sup>1</sup>や石棒\*<sup>2</sup>などがある(右図)。

[<sup>19</sup>]信仰がみられた。

※1 土偶…生殖や収穫を祈るための土製品で、女性を模っている。

多くは、壊された状態で出土する。現在、5体が国宝に指定されている。

※2 石棒…呪術・祭祀に使用した棒状の石器。男性の生殖器を表現していると思われる。



三内丸山遺跡(青森県)

縄文のビーナス



たなばたけいせき(長野県) 棚畑遺跡(長野県) 高さ 27.0cm

- ◆成人の通過儀礼の一つとして[<sup>20</sup>]が行われ、死者は生者に災いを及ぼさないように[<sup>21</sup>]された。



屈葬 (蜷塚遺跡、静岡県)



抜歯

#### 【ポイント】

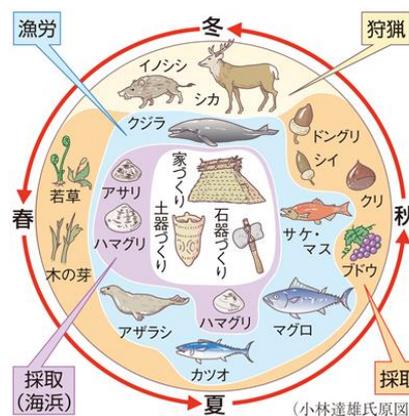
①なぜ、貝塚から縄文人の生活や自然環境がわかるのか

答:貝塚は、縄文人が捨てた物が堆積して層を成している遺跡なので、

土器などの人工物の他に、貝殻に含まれるカルシウム分が保護された人骨や、食料とした魚の骨などが出土するから。

②なぜ、縄文土器がつくられるようになったのか

答:自然環境の大きな変化から、ドングリ等の植物性食料の重要性が高まり、水にさらしたり、土器で煮たりして灰汁抜きをしなければ食用にできないから。



縄文人の四季

#### トチやドングリの加工



# I 弥生文化の成立

## 1. 時期

「弥生時代」…紀元前 4 世紀頃～紀元後<sup>1</sup> ] 世紀中頃までの数百年間

\*弥生文化が及ばなかった地域…  
北海道には金属器・稲作が伝わらず  
「**縄文文化**」と呼ばれる文化、  
南西諸島では稲作が行われず「**貝塚文化**」と呼ばれる文化が続いた。

## 2. 特色

- ① 中国大陸の農耕文化の影響を受け、西日本に**水稻農耕**を基礎とする文化が成立し、東日本に広まった。高温で焼かれ、薄手で硬く、赤褐色のものが多い
- ③ 石器と<sup>2</sup> ], **弥生土器**の併用

\*弥生土器の名称…  
発見された場所である本郷弥生町に由来。  
現在の東京都文京区弥生 2 丁目。

# II 水稻農耕の開始

## 1. 農耕技術

地下水位が高く湿潤なため排水施設を必要とする水田で、生産性は低い

- ① 初期: 低湿地を利用した**湿田**で、木製の**鋤・鋤・田下駄・田舟**を使用し、<sup>3</sup> ] で**穂首狩り**(右図)



- ② 後期: <sup>4</sup> ] 製農具の普及→**微高地**に**灌漑施設**を必要とする**乾田**の開発(生産性 UP)

## 2. 遺跡

- <sup>5</sup> ] 遺跡<佐賀>…最古の水田跡を検出
- <sup>6</sup> ] 遺跡<福岡>…縄文時代晩期後半の水稲耕作が判明
- 砂沢遺跡<青森>…弥生時代前期末の東日本最古の水田跡
- 垂柳遺跡<青森>…本州最北端の弥生時代中期の水田跡



\*島根県の**荒神谷遺跡**では銅鐸6本、銅矛16本、銅剣358本が発見された。  
\*島根県加茂岩倉遺跡では39点の銅鐸が一括出土された。

# III 金属器の使用

- 1. **青銅器**…銅と錫の合金。主に**宝器**・<sup>7</sup> ] として使用
- 2. 九州地方北部を中心に**銅矛・銅戈**  
近畿地方を中心に**銅鐸** が分布 } この分布状況は、共通の祭器を用いる地域圏を示している。  
瀬戸内中部を中心に**平形銅剣**
- 3. **鉄器**…主に実用具として使用。(例)農具(鎌)、工具(斧・刀子・鉈)など

# IV 農耕社会の生活

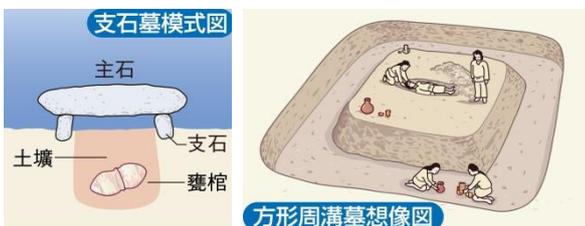
## 1. 衣食住

- ① 衣…石製紡錘車や木製織機を使用し、織物を制作。 c.f **貫頭衣**(右図)
- ② 食…穀を稲穂から取り、木臼や**竝杵**で脱穀し、**甑**で蒸して食用にした。
- ③ 住…大規模な地縁的集団を作り、**竪穴住居**を建て平地に定住し、<sup>8</sup> ] に穀物を貯蔵。
- ④ 集落…周囲に濠をめぐらす<sup>9</sup> ] 集落・**高地性集落**も出現



## 2. 葬法(墓制)…屈葬→体全体を伸ばした状態で埋葬する<sup>10</sup> ] (右図)へ

- ① 銅鏡・玉などの**副葬品**→身分・貧富の差が発生?
- ② 九州北部を中心に**甕棺墓**、朝鮮半島南部にも多く分布している<sup>11</sup> ] などがみられる。  
他の地域では**箱式石棺墓**もある。(その他の)
- ③ 近畿地方から東日本に至る各地に、低い方形の墳丘の周囲に溝をめぐらせた<sup>12</sup> ] も作られた。



### 【ポイント】

なぜ大型の墳丘墓や大量の副葬品を伴う墓が出現したのか  
→ 集団の中に身分差が生じ、各地に強力な支配者が出現したからだと考えられる。

I 小国の形成

◆農耕社会の成立により余剰生産物をめぐると戦いが発生

→人やムラ(村)の闘争・併合が進み、各地に王を中心とした集団の連合体である小国(「<sup>1</sup>」)が形成  
強大な集落が弱小集落を統合

◆防御的機能をもつ集落が出現:

- ①周囲に濠や土塁をめぐらした環濠集落 (例)佐賀県の<sup>[2]</sup>遺跡、奈良県の<sup>[3]</sup>遺跡など
- ②争いに備えて不便な山頂や丘陵などに立地した高地性集落 (例)香川県<sup>[4]</sup>遺跡

\*Point\*

瀬戸内海沿岸地域や近畿地方では高地性集落が、九州~関東地方には環濠集落が主に作られた。

II 邪馬台国

中国の史書にみる倭(古代日本)の状態

出典史料	時期	記述内容
[ <sup>5</sup> ]	紀元前1世紀	当時の日本列島のあたりには <sup>[6]</sup> 余国の小国が分立し、定期的に <sup>[7]</sup> ※1と通交するものもあった
[ <sup>8</sup> ]	[ <sup>9</sup> ]年	建武中元二年、倭の <sup>[10]</sup> 国王が後漢の都 <sup>[11]</sup> に遣使、 <sup>[12]</sup> から印綬(「 <sup>13</sup> 」)と刻印した金印(「 <sup>14</sup> 」)を授かる
	[ <sup>14</sup> ]年	安帝の永初元年、倭のとある国王帥升が <sup>[15]</sup> (奴隷)160人を後漢の皇帝に献上
[ <sup>16</sup> ] 中国の歴史書『三国志』中の「魏書」第30巻烏丸鮮卑東夷伝倭人条の略称。	3世紀	邪馬台国 <sup>※2,3</sup> の女王 <sup>[17]</sup> が倭の中で約30国を支配
	[ <sup>18</sup> ]年	卑弥呼が魏に朝貢し、 <sup>[19]</sup> の称号と銅鏡百枚などを授かる
『晋書』	256年?	女王 <sup>[20]</sup> が西晋に遣使 ※以後、中国とは没交渉

※1 楽浪郡…漢の武帝が朝鮮半島北部に設置した統治機構。現在の平壤付近にその中心があった。4世紀初め、高句麗に滅ぼされた。

※2 邪馬台国の社会…邪馬台国では王-大人-下戸という身分があったとされている。

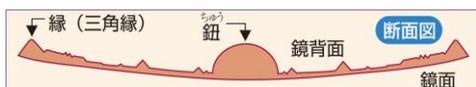
※3 邪馬台国の位置…邪馬台国の所在した場所は九州説と近畿説がある。奈良県桜井市の纏向遺跡では、2009年に3世紀前半頃の整然と配置された大型建物跡が発見され、邪馬台国との関係で注目されている。

【漢委奴国王印】



寸法: 一辺の平均 2.347cm  
 鈕を除く印台の高さ: 平均 0.887cm、総高 2.236cm  
 重さ: 108.729g、体積 6.0625cm<sup>3</sup>  
 発見場所: 筑前国那珂郡志賀島村東南部(現福岡県福岡市東区志賀島)  
 発見時期: 1784年4月12日(天明4年2月23日)

卑弥呼が魏から賜ったと考えられる「景初三年」銘のある三角縁神獸鏡 (神原神社古墳出土、島根県)



3世紀の東アジア

# 史料

安帝の永初元年、倭の国王帥升等、生口百六十人を献じ、請見を願ふ。桓靈の間、倭国大いに乱れ、更相攻伐して歴年主なし。

(『後漢書』東夷伝)

五七年、倭国王の帥升等が奴隷160人を安帝に献上した。桓帝と靈帝の時代(二世紀後半)、倭国では大乱が起きた。互いに戦いあい、年を経ても盟主がいなかった。

建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す。……光武、賜ふに印綬を以てす。

(『後漢書』東夷伝)

一〇七年、倭の奴国の王が後漢に朝貢した。……光武帝より「漢委奴国王」の印綬を賜った。

夫れ楽浪海中に倭人有り、分れて百余国と為る。歳時を以て来り献見すと云ふ。

(『漢書』地理誌)

(注)楽浪郡：前108年に前漢の武帝が朝鮮においた4郡の一つ。現在の平壤付近の地域。

楽浪郡の海の先に倭人が住んでいる。倭は百余国に分立し、なかには漢に朝貢する国もあった。

……鬼道を事とし、能く衆を惑はす。年已に長大なるも、夫婿無し。男弟有り、佐けて国を治む。……景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣し郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む。太守劉夏、吏を遣し、将て送りて京都に詣らしむ。その年十二月、詔書して倭の女王に報じて曰く、「……今汝を以て親魏倭王と為し、金印紫綬を仮し、……特に汝に……銅鏡百枚……を賜い、……」と。卑弥呼以て死す。大いに冢を作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。……

(『魏志』倭人伝)

(卑弥呼は)呪術をおこない、多くの人に自分の占いを信じさせている。すでに成人しているが、夫はなく、弟が政治を補佐している。……景初三(239)年六月、倭の女王が大夫の難升米らを帯方郡に遣わし、(魏の)天子に謁見して朝貢することを求めた。帯方郡長官の劉夏は、郡の官吏を遣わして案内させて京都(洛陽)まで送らせた。その年の十二月、詔書を下して倭の女王に報じていうには、「……今汝を親魏倭王となし、金印紫綬を授け、……銅鏡百枚もつかわす……」。卑弥呼が死ぬと大きい墓をつくった。その直径は百余歩で、卑弥呼に殉死した奴隷百余人が一緒に葬られた。

『魏志』倭人伝の内容から、邪馬台国の社会には身分差があり、国家的諸制度が形成され始めていたことがわかる。

項目	内容
身分制度	「大人」-「下戸」-「生口(奴隷)」という身分が成立していた
衣	男子は「横幅(横に長い布)、ただ結束して相連ね、ほぼ縫ふことなし」 女子は「単被(ワンピース)の如く、その中央を穿ち、頭を貫きてこれを衣る」
食	「冬夏生菜を食す」「食飲には籩豆(高杯)を用ゐる手食す」「酒を嗜む」
住	「屋室あり」「父母兄弟、臥息処を異にす」
習俗	男子は「皆黥面又身す」 「朱丹を以てその身体に塗る」
税制度	「租賦(税)を取むに邸閣(倉庫)あり」
交易	「国々に市有り」て「有無を交易」す
法制	「其の法を犯すや、軽き者は其の妻子を没し、重き者は其の門戸および宗族を没す」